

充実感、達成感がとても印象に残り、自分が知らず知らずのうちに守られていたということに気づかされました。

自然と上手くつき合いながら生きていくことは簡単なことではありませんが、最大限の努力をしている人たちを見ることで、自分の大きな経験になりました。ありがとうございます。

各地からのたより

「真弓峠・白果峠を越えて

おんたけ王滝に行こまいかツアー」

【東濃署】九月十八日から十九日、中津川市付知・加子母地区の住民ら三二名が長野県王滝村を訪れました。これは、付知・加子母と峠を挟んで隣り合い古くから深い関わりをもつ王滝村が、長野県西部地震の甚大な被害を受けてから九月でちょうど三〇年を迎える節目に、御嶽山麓を巡って王滝村の災害復旧への歩みを分かち合い、王滝村の方々と交流を深めようと企画されたものです。主催は裏木曾古事の森育成協議会、共催が東濃森林管理署で行われました。

初日は、付知を出発して裏木曾国有林に入り、明治時代に地元篤志家が付知から王滝を結ぶ街道として開設し御嶽参りなどに利用された王滝新道の遺構を見学後、岐阜・長野県境である真弓峠を越えて長野県側に入りました。

午後は、同日に開催された長野県西



復旧治山工事が行われた現場を視察

部地震復興三〇周年シンポジウム(木曾町)に参加し、災害の恐ろしさや治山工事による植生復元の取組等を学びました。さらに、夜は、王滝村内の民宿に宿泊し、王滝村職員から被災時の状況や復興・復旧の様子についてお話を伺い、復興への歩みを分かち合いました。

二日目は、御嶽山登山口において、長野県西部地震で発生した大崩壊地(御嶽崩れ)(幅六〇〇メートル×高さ六〇〇メートル)の源頭部を間近に見学し、災害の規模の大きさに圧倒されました。さらに、御嶽崩れから土石流が流れ下った濁沢や伝上川を一望できる幕岩展望台で、付知から真弓峠を越えて復旧治山工事を請け負った関係者の説明を受け、たゆまぬ努力と三〇年の歳月をかけて荒廃した大地に森林が造成された様子を見学しました。

その後、王滝村の滝越地区の住民の方



滝越地区住民との座談会の様子

とお茶を飲みながら座談会で交流を深めました。地元の歴史研究家の方から「滝越地区は、中央線が開通する前は木曾福島より裏木曾の加子母・付知地区とのつながりが街道を通じて強かった。」などの話がありました。滝越地区の参加者からは「滝越は住民が減少し現在は十八名。

今後は、昔のように裏木曾とのつながりを深めることが村の活性化につながると思う。期待している。」、裏木曾の参加者からは「こうした交流を重ねていきましょう。」と発言があり、今後も交流を続けていくことを約束し別れました。

帰路は、滝越地区から白果峠を越えるルートで加子母地内に戻りました。途中で、木曾越峠において眼下に広がる加子母の集落を見晴らし、かつて王滝との往来を見守った観音像を拝んで、二日間の行程を終えました。

参加者からは、「普段見ることができないところに案内していただき参加して

よかった。また、昔のように王滝村との交流を復活しお互い助けあっているようになるといい。」と感想を話されました。

このツアーから間もない九月二十七日に御嶽山が噴火し、多くの方が亡くなるなど大きな被害が発生しました。心からお見舞い申し上げます。また、滝越地区には降雨状況によって避難勧告が出される等の影響が続いており、非常時とはもとより様々なレベルで交流が深まっていくことを願ってやみません。

伐採・造林一貫作業システム

IN 愛知

【愛知所】九月十七日、絶好の秋晴れの下、段戸国有林において、伐採・造林一貫作業システム現地見学会を開催しました。林野庁、愛知・岐阜県の林業関係者、中部局、各署の職員等約一九〇名と大変多くの参加者となりました。

愛知森林管理事務所では、木材生産の作業効率の向上とコストの削減に向けて、森林作業道と先進的林業機械を組み合わせた低コスト作業に加え、さらにコンテナ苗による伐採後の植栽までを一貫した作業システムの普及・定着に取り組んでいます。また、集造材により発生する林地残材を現地で破碎し、木質バイオマス発電の原材料として利用する試みにも取り組んでいます。今回の見学会は、実際に素材生産を行っている新城森林組



先進的林業機械による集材作業

合の生産現場において、「先進的林業機械緊急実証・普及事業」により導入した主索ウインチ付スイングヤーダと繊維ロープによる集材材を実演しました。

全木集材により集材した材をプロセスサにて造材し、そこで発生する枝葉等については、少し離れた場所に運搬して移動式破砕機により木質バイオマス原材料にチップ化するという、伐採から集材、林地残材をチップ化するまでの工程を参加者の皆さんは熱心に見学していました。

集材後の林地には枝葉はほとんど残らず、地拵えをせずにコンテナ苗の植栽が可能となっており、十月後半には植え付けが始まる予定です。

また、この事業地では、名古屋大学と連携してコスト分析等の調査も実施しており、低コスト造林を可能とする「伐採・造林一貫作業システム」の普及につ

ながるよう努めていく考えです。参加者からは、「大変興味深い見学会であった。国有林が先進的にこういったシステムに取り組んでいただけると参考になる。」「枝葉等本当の林地残材に付加価値がつくバイオマスの取組に興味を持った。」「いろんなテーマを持った見学会であり、ぜひ研究結果、コスト分析結果等公表していただきたい。」等、後日たくさんのアンケート結果が送られてきました。この見学会開催は、愛知森林管理事務所の今年度の重点取組の一つとして全所員が一丸となって取り組んだイベントであり、参加者の誘導案内等、名古屋事務所等の協力も得て実現でき有意義な開催となりました。



現地見学会に参加された皆さん

関係機関と雲ノ平植生

復元事業現地検討会を開催

「富山署」当署では、平成二十年度から、薬師岳・雲ノ平国有林保護管理協議会（雲ノ平山荘）及び東京農業大学（短期大学部環境緑地学科下嶋助教）との協働で「雲ノ平植生復元事業」を実施しています。

雲ノ平は富山県富山市の黒部川源流部に位置し、祖父岳（じいだけ）火山の噴火により形成され、黒部川の本流とその支流岩苔小谷に挟まれた標高二、四〇〇～二、七〇〇メートルにある、日本で最も高標高地にある溶岩台地です。面積は約二五〇ヘクタール、池塘と岩が点在する高山植物の宝庫で、日本庭園やスイス庭園などと名付けられた群落地が広がっています。当地区は、登山道を中心として、登山者の踏圧とその後の雨水の浸食により植生が衰退し、約七、七〇〇平方メートルが裸地化したため、植生復元に取り組んでいるものです。

事業計画については、平成二十年度～二十二年度を第一次計画、平成二十四年度～二十六年度を第二次計画として実施してきたところであり、本年度をもって第二次の計画期間が終了するものです。

このため、過去に実施した施工箇所における植生の復元状況及び工法の検証を行い、第三次計画策定における実施箇所及び工法等を検討することとし、当署職



雲ノ平山荘での意見交換会

員の外、局技術普及課、東京農業大学、雲ノ平山荘、環境省自然保護官事務所、富山県自然保護課、富山市科学博物館に委員を依頼し、九月九日から十一日にかけて現地検討会を開催しました。

当日は簡単なオリエンテーションを行い、その後現地に赴き植生復元施工箇所である「雷岩」「キャンプ場」「日本庭園」を視察し、植生の復元状況や洗掘された箇所の端（崖）の処理方法など、雲ノ平独自の植生復元方法について確認し、意見交換を行いました。

施工箇所を視察した委員からは、現地の地形に応じたきめ細やかで丁寧な工事が実施されていることや、場所によっては植生復元が確実に進んでいる状況が確認できたという意見など、経過は良好との評価であり、現行の工法についても有効であり、継続していく方向で一致しま



施工地の現地検討会

また、植生の復元には長い年月を要することから、今後の実行体制のあり方等についてまで話題が及ぶなど活発な意見交換会となりました。

今回の検討会を踏まえ、翌年二月に開催予定である「雲ノ平植生復元事業検討委員会」において、未実施箇所に係る第三次計画を策定することを確認し現地検討会を終了しました。

豊かな漁場を目指せ！

漁民の森林づくり活動

【愛知所】十月七日、漁協関係者及び三谷水産高校海洋資源科一年生を対象に漁民の森林づくり活動を実施しました。

この活動は、良質なアサリの産地として有名な『三河湾』へつながる豊川・矢作川両水系に位置する段戸国有林において、豊かな森林づくりを目指し、漁協・高校・NPO法人・愛知県・蒲郡市と連携して森林整備（シロモジの除伐）を実

施しています。

この活動も今年で十三年目を迎え、活動当初から参加してみえる三谷漁業協同組合の小林組合長から、「植栽時は一畝程度だった広葉樹は、今では五畝程に成長し、十年の歳月を感じる。今後も活動を継続し、森を守り豊かな海を育んでいきたい。」との感想をいただきました。今後とも「豊かな森林、豊かな海」づくりに努めていくこととしています。



森林整備を行う高校生

寄稿

かつて木曽ヒノキや天然広葉樹を運材し、地域住民に愛され続けてきた森林鉄道に関する思い出や楽しい出来事などを、OBの皆様から、ご寄稿いただきました。

国有林の歴史を示す貴重な財産としてここに掲載させていただきます。

森林鉄道「小川線」の思い出

元長野局計画課 千村隆哉氏

当時の森林鉄道（林鉄）小川線は、上松駅（上松野木場）を発着の基点とし、小川入国有林へ伸びる路線であった。上松駅を出発してまもなく木曽川を渡る鬼淵鉄橋（ワーレントラス型・最長九三・八メートル）を過ぎると鬼淵停車場があり、小川線と王滝線の分岐点であった。小川線は木曽川下流に沿って走り、途中から小川支流奥地小川入国有林へと伸びていた。

今から一〇〇年前、アメリカ製のボールドウィン蒸気機関車が木曽谷に導入され、木材輸送をはじめ、ご神木・学童・行商人・花嫁・病人等々地域密着の生活を支える足となり、「軽便」の愛称で親しまれ、木材積載台車、客車のけん引車として活躍しました。

私が中学生の頃、小川線途中の中小尾停車場近くにある採草地のワラビ採りに興じ、大きな荷物を抱え、軽便にゆられた感激が今でも回想されます。当駅構内は唯一のスイッチバックがあり、給水の補給をして赤沢・黒沢方面へ向かう軽便の基地の一つでもありました。

昭和三十年には、職員の牧野能一さんは、林鉄の客車を理髪車に改造し、山泊生活をしている人達の理髪屋として親しまれ活躍されておりました。

小川・王滝線に女性駅長がいて、駅間の電話連絡、赤と緑の手旗で列車に合図を送ったり、運転手とタブレットの交換をするなど列車の安全運転の要として活躍しておりました。

ボールドウィン・貴賓車・理髪車・駅長さんが使用していた用具一式が、今も赤沢自然休養林内森林鉄道記念館に展示され、来訪者の珍重格好の場になっております。

終稿にあたり小川線は、今上天皇（当時皇太子殿下ご夫妻同伴）はじめ、高松宮（たかまつのみや）・孝宮（たかのみや）・順宮（よりのみや）・清宮（すがのみや）など皇族方がご来訪され、森林鉄道を愛用されました。大正の始めから昭和にかけて、約半世紀にわたり多くの人々に愛され親しまれた森林鉄道は、自動車時代にボタンタッチされました。さようなら軽便。



【南信署 豊丘森林事務所】

森林官 南坂節子

豊丘森林事務所は、長野県下伊那郡豊丘村に所在し、天竜川を挟んで一市二村の五箇所分散する約二、八〇〇畝の国有林と、一市一町三村に点在する約五〇〇畝の六官行造林地を管理しています。当森林事務所が管理する国有林は、中央アルプス、南アルプスの山岳地



リンロンテープの施工

今年度は、シカ防護柵の見回り修理を強化するとともに、クマから造林木を保護するためリンロンテープの施工を導入しました。また、適正な個体数調整に寄与するべく、有害鳥獣駆除の実施箇所も

この十年ほどでシカの生息域が拡大し、シカ、クマ共に生息数も増加している模様です。特にシカによる幼齢木への食害が激しい状態です。一方、成長の良いヒノキやスギの造林地では、クマの剥皮被害による枯損木が目立って増えています。

帯から離れた里山が多く、集落跡地の所在地やかつて山間地に点在した集落を結んでいた街道跡、権現山（風越山（飯田市））など山岳信仰の拠点があり、松茸をはじめとする副産物販売や古道探訪など地域の山として親しまれています。

現在当森林事務所では、ニホンジカ（以下「シカ」）やツキノワグマ（以下「クマ」）による獣害対策と二種境界の巡検に力を入れています。

増やしています。今後より効果がある獣害対策を、効率よく施工できる方法を探っていきたいと思います。

二種境界の巡検は、三遠南信自動車道やりニア中央新幹線が当森林事務所管内を通過することが決定したことから、重点的に実施することとしましたが、実際に境界を歩いてみると地域の方々が、国有林に隣接した古道の整備を長年続けてくださっていることなど、普段の業務だけでは知り得ない地域の活動に触れ、同時に地域の方々に胸を張れる国有林の施業をしていくことの責任を感じました。



コンクリート標発見！

各自自治体でも、沢歩きや散策など身近な山林内でのイベント候補地に国有林が揚がることもあることから、様々な要望に応えられるよう奥地の状況把握に努め地域に寄り添った管理をしなければならぬと改めて感じています。

私は現場業務の経験が浅いことから、どの業務でも署の職員や近隣森林事務所の森林官や森林技術員、また非常勤職員の方々の応援が欠かせません。この方々

には、作業の段取り、山の歩き方、道具の使い方など一つ一つ指導していただき大変お世話になっていきます。

縁あって出身地の森林事務所に配属していただき、管理する国有林へは人一倍の思い入れがあります。地域の方々や請負事業体、職員の皆さんと一緒に、一〇〇年後の地域の方々に喜ばれる山作りに少しでも貢献できるよう精一杯切磋琢磨と試行錯誤を続けると共に、森林官業務を楽しみたいと思っています。



近隣の森林事務所の皆さんと（筆者 前列中央）

人のうごき

中部森林管理局人事

九月三十日付

▽休職（総務企画部総務課共済組合係）
（平成）二十七年三月三十一日まで（更新）
吉原多恵子

十月一日付

▽林野庁出向森林整備部整備課（北信署森林官（野沢担当区））
重松 千晶

▽北信署森林官（野沢担当区）（愛知所）
清水 隆行

▽職務復帰（飛騨署治山技術官）
菅野 暢晃

十月十五日付

▽休職（木曽署森林技術員）
（平成）二十六年十一月三十日まで
安原 清文

▽休職（南木曽支署森林技術員）
（平成）二十六年十一月三十日まで
下林 浩二

行事・会議等の予定

◎准フォレストー連携会議

11月6日～7日 下呂市

◎第二回森林管理署長等会議

11月13日～14日 中部局

◎会計検査院実地検査

11月17日～20日 東信署・南信署・飛騨署・東濃署・局

伐採・造林一貫作業システム説明会

11月26日 東信署管内

◎中部局有志協議会連絡協議会

11月28日 松本市

◆秋山郷

秘境で知られる秋山郷は、長野県下水内郡栄村と新潟県魚沼郡津南町にまたがる中津川沿いの地域の名称です。

日本の秘境一〇〇選に数えられており、交通事情が悪く、豪雪地帯で閉ざされた環境から平家の落人伝説や特有の風俗習慣が残っている地域です。

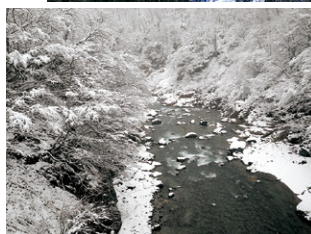


平家の落人伝説

とは、平家一門の平勝秀が落ち延びたとされているものです。

また、平家一門で越後で勢力のあった城資長一族が越後平家と言われ逃げ延びたとの説もあります。

秋山郷の名の由来は、この地域では川



冬の秋山郷と中津川



鳥甲山

の下流から見て上流を「アゲ・アギ」と言い、それが訛って「アキ」となり、谷を「ヤ」、間を「マ」と呼んで上流の谷間の村という意味で「アキヤマ」と呼ばれるようになり、天明三年の飢饉で一村が全滅した「大秋山村」に由来しているようです。

秋山郷は、江戸時代の文人鈴木牧之が秋山を訪れ風俗や習慣を書き留めた著書「秋山紀行」が出版されて有名になりました。

「秋山紀行」は、天保二年（一八三二）には完成していましたが、依頼をした十返舎一九の死により出版が見送られ、昭和三十三年になって出版されました。

秋山郷へのアクセスは、志賀高原方面からのルートと津南町方面からのルートがありますが、積雪期は津南町方面からのルートのみとなります。平成一八年には四〇もの積雪となり唯一の生命線である国道四〇五号線が通行不能となり住民

五〇〇人が約一カ月間孤立するといった事態に陥ったこともあります。

林道除雪と苗場山



秋山郷に関係する国有林は、赤石沢・岩菅・鳥甲の約五五三六二ヘクタールで、佐武流山周辺森林生態系保護地域（八八三九ヘクタール）、苗場山湿原植物群落保護林（一一五一ヘクタール）、鳥甲山特定地理等保護林（一一一九ヘクタール）、月夜立特定地理等保護林（二七六ヘクタール）を設定して貴重な自然や生態系を保全しているほか、苗場山二二四五ヘクタール、佐武流山二一九一ヘクタール、鳥甲山二〇三七ヘクタールがあり夏場には多くの登山客で賑わっています。

また、スギ・カラマツを中心とした人工林もあり、今年度は三七ヘクタールの間伐と四二ヘクタールの保育作業を予定しています。

秋山郷は、V字溪谷で「蛇淵の滝」「夫婦の滝」「不動の滝」「大瀬の滝」「小水の滝」「大滝」などの多くの滝が見られるほか、切明、朽川、和山、上野原、屋敷、小赤沢など多くの温泉もあります。

小苗場山の登山口の近くにある小赤沢温泉の楽養館は鉄分を含んだ温泉で赤褐色をしています、湧出口では無色透明

(上) 楽養館
(左) 切明温泉

の源泉が酸化して変色するようです。また、切明温泉では、スコップで河原を掘って自分だけの露天風呂を作ることにも出来ます。

秋の秋山郷は、十月下旬が紅葉の見頃となり、多くの種類の樹木が五色織りなす色彩ですばらしい景色を見せてくれます。中でも、紅葉と白樺と鳥甲山を湖面に浮かべる天池の景色は圧巻です。

この秋は「秘境・秋山郷」へ来られて日本の原風景に触れてみては如何でしょうか。



天池の紅葉